

Translation of Ellen Key's "Beauty in the Home"

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Ikegami, Takayuki メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00061952

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



翻訳 エレン・ケイ著『住まいの中の美： エーレンスヴァルドの文章のささやかな説明』

池上 貴之

Translation of Ellen Key's "Beauty in the Home"

Takayuki Ikegami

エレン・ケイ（1849年-1926年）は『児童の世紀』の著者として有名なスウェーデンの社会思想家、教育者であるが、デザイン理論家としても強い影響力のある知識人であった。特にスウェーデンのデザインに与えた影響について、デザイン研究者のレーンは「ケイの家、住居についての信念は、美術と社会の両方における創造的な変化の源となり得、決定的で長く続く影響をスウェーデンのデザイン理論や応用美術、建築に与えた。」¹と述べている。

『住まいの中の美：エーレンスヴァルドの文章のささやかな説明（以下「住まいの中の美」と称する）』は1897年に雑誌『IDUN クリスマス版』に「現代の住まい」のシリーズの一つとして掲載された。IDUNのクリスマス版に掲載されることについて「そのエッセイは重要で影響力を持っていた。なぜなら、とりわけIDUNのクリスマス版はおそらくスウェーデンにおいて、ただ一つの最も広く読まれた刊行物であった。²」と言われ、当時の識字率がほぼ100パーセントであったとされるスウェーデンにおいて、家族全員が集うクリスマスの時期にIDUNが多くの人たちに読まれていたことがうかがえる。掲載されたケイのこのエッセイはスウェーデン国内の女性たちを励まし、住環境について考える機会を与え、多くの国民の美的感覚を刺激するものであった。後にケイは『住まいの中の美しさ』に大幅加筆したものに加えIDUNやJulblossなどに寄稿した住環境に関連するエッセイ全4稿

を一冊の本にまとめる。それがその後、第一次世界大戦中にもかかわらず相当の部数が販売され、後のグレゴール・パウルソンやスウェーデンのデザインに多大な影響を与え、今に至るまで読まれることとなる『すべての人のための美（Skönhet för Alla）』である。

『住まいの中の美』は、ケイの執筆した文章の中でも特にデザインについて言及しており、その影響力は前述の通りであるが、スウェーデン語でしか発表されておらず、今まで広く日本国内で読まれることはなかった。MOMAのキュレーターであるリードは「20世紀初頭からスウェーデンデザインの動向はモダン建築や室内装飾へ国際的に広範な影響を及ぼしたが、それらが現れた知的背景については、未だにあまり知られていない。³」と述べている。100年前の文章でありながら、その思想はスウェーデンデザインの根底を支えるものである『住まいの中の美』を日本語に翻訳し広く社会・一般に発信することで、多くの人が手に取ることのできるものとなり、スウェーデンデザインの知的背景を理解する上で重要な意義を持つものと考えられる。

エレン・ケイ『住まいの中の美：エーレンスヴァルドの文章のささやかな説明』⁴

有用さは尊重されるべきものであり、すべての女性たちが認識している。美しさは魅力的であり、多くが認識している。しかし、有用さと

美しさの調和こそ唯一奮闘に値することを、どれだけの人たちが認識しているのだろうか？さらに少ないのは、どのようにすればこの調和が実行されるのか、明快な概念を本当に理解している人である。さらにいつそうめったに見られないのは、現実的な困難を打ち負かすために間違いなく必要とされる、精力的な熱望を持った人である。

実は美意識の高い女性ですら美しさのための奮闘を人生の楽しみのように見なし、義務であると考えていないのだ。美しさとは裕福さであると思われている。それは金銭的に余裕がある一部の人たちのものであり、それ以外の人たちには無縁なものと。しかしそれはむしろ確実にすべての人に関係しており、美的感覚を持つ人は、有用さと美しさの確実な調和を獲得することができる。もし、後者を洗練された贅沢品と混同することがなければ、それはむしろ、度々本当の美しさへの障害となってきたのである。後者は、シンプルな方法で安価に得ることができる。美しさへの一連の奮闘を通して、女性は有用さに満足すると同時に、満たされた女性は彼女自身の性質に基づいた要求を正当化するだけでなく、家族の成員への強い影響も及ぼす。彼女が中心人物である家庭において、子供たちのセンスは、美しさの印象によって生まれ洗練される。大人は平穏と喜びを経験する。それらは常に彼らをさらに愛おしい者とし、しばしば高潔にもする。そして、女性自身はその創造の喜びを通して幸せを感じる。それは美的な活動による必然的な結果である。

いかに事実に反しているか、住まいの中の美しさが莫大な資産によってのみ手に入れることができるという考えが、その多くの人たちに見られる、無意味な贅沢品や芸術品の溢れかえる住まい。そこに深い美の必要性はなく、個人のテイストによってそれらの選択がなされたわけではなく、またそれらが機能する場が与えられることもなく、最も一貫性のない物が集められ、なんとそれらは室内装飾業者によって整えら

れたものなのだ！そのような、厚手の掛け布や暖炉のクッション、間仕切り、マット、絵付きの磁器、焼き絵、小さな彫像、絵画に囲まれた環境は、美しさを愛する人たちが駆られる熱烈な憧れとは正反対にある。例えば、統一性やシンプルシティについては、一昔前の田舎の部屋がある。真珠色の家具や白く網状をなしたカーテン、飾り気のない壁の！しかし彼は知っている。そのような部屋はもう見つけることができず、最も遠く離れた田舎であっても彼が出会うのは、無意味なマカルトのブーケや日本の扇子、ケバケバしい皿、オレオグラフ、その他の安っぽい代物であることを。多くの女性たちはそれほどたくさんのテイストを持っていないが、彼女たちはスタイリッシュであること、一昔前の住まいを敬う。もし彼女らがそれらを受け継いだとき、すなわち新しい時代に要求される改装について理解し、平凡化させることがないほどのスタイルを持っていないということだ。

次に述べることのほとんどは、女性たちに向けている。美しさへの関心を持っているが、自身の気持ちを満足させるだけの金銭的な余裕がないことを悔やみ、ため息をつきつつスタイルに欠ける家具を購入する女性。なぜならそれらはただ安っぽいだけなのだ。壁紙に絵画を掛けることを疑うことなく自己強要し、レッドブラウンやブラックグリーンを壁紙に用いると絵画が台無しになってしまうと心配するような女性。床の目立つ白さを必死に探してマットで覆うような人。しかしながらこのような女性たちは、彼女たちが落ち着いたとき、一人の若い女の子の例にならおう。シンプルなモデルでありながら、スタイリッシュな家具を選ぶとき、彼女は田舎の大工と一緒にあって、淡い色彩の装飾を施し、その結果-家具の問題において-有用さと美しさ、安価さを融合することができるのだ。壁紙に関して、人は-取るに足らない壁紙を購入し、それらのグリーングレーやマイルドイエローの裏地を表面に返せば-たったの2〜3クロノールの費用で壁を家具や芸術品と調和した

背景へと変えることができる。とてもシンプルな方法によってその人たちの住まいの床に光沢仕上げを施すこともでき、そうすれば彼ら彼女らは、暖かくて、アンバーがかった色合いを手に入れられる。また例えば、安価でスタイリッシュなイギリスのクレトン生地で彼ら彼女らの木製か枝編み細工の家具にあわせてクッションを縫うことで、容易に安価さに美しさを兼ね備えさせることもできる。

これらの実践的なヒントは限りなく挙げ続けることができる。さまざまなテイストや状況に適応しながらも。しかしながら、ここで私は話を遮って強く主張する。とても収入が低い一組の若いカップルであっても、一つか二つの良質な芸術作品の模造品を購入することによって、彼ら彼女ら自身やゲストの目を楽ませることができることを。もし、そのもてなしがエーレンスヴァルド⁵の一文に値するのならば。

「もし北方の人々が食べ物によって誘惑されることがなければ、高い道徳的な地位と永続的な喜びの種によってお互いを幸せにすることができるだろう。」

同じ思想家にはもう一つ格言がある。北方の人々が壮麗さを養えば、人々の要求は前述のものなくして満たされ、それは公共と個人の生活の中の双方に見いだされるのだ。北方の人々はおおよそ理解していない。本当の美しさはうぬぼれを抱かないその中でのみ見つけられることを。それは《健全な人間性の中にある純粋な要求を満たすことで、よりよい結果がもたらされるよう、事柄を正しく行う》ことである。これは理由の一つだ。私がおほぼ述べた、どうして意味のない贅沢さは不愉快な圧迫感を植え付けるのかという。美しさの感覚は《適度 (lagom)⁶と限度の中の本当の喜び》にのみ見いだされる。芸術作品が、うぬぼれによって集められ部屋を埋めたのなら、その効果は奪われてしまう。なぜなら、それらは気品のある環境を所有していないからだ。有用さを計算した物はとてもひねくれていて、それらが存在する理由を明らかに

することもない。そのため醜いものとなる。その一方で、最もシンプルな物はエーレンスヴァルドの言葉と同じ真実を示すことができる。

「それは信じられないほどに物が美しくなるのだ。人があらゆる物の本当の要因を理解したときに。」

悪趣味なのは、装飾によってその目的を覆い隠すことで有用さが美しくなると考えることだ。しかし、どのような家庭用品も美しくなることは皆無である。何よりもまず、目的と完全に一致した確かな適切性、それから整然さを与えなければ。スカンセンにある小屋はそれらを持っており、そのため美しく、上品な印象を与える。なぜならそのすべての家庭用品は必要性を満たしており、さらに適切で節度のある装飾が施されている。これらの日用品は実用的な要求と《幸せの要求》の両方に応じている。すべての物が相互に、そして目的と調和する中に置かれるからだ。それらは一言で言えばスタイルを持っており、そのことによってその領分を美しくしている。

いずれにしても過去 25 年の間に、テイストについて一つの素晴らしい前進が私たちに起こった。その前進は年間を通した展覧会によってこの上ない明らかな兆しを与え、そして美しさを考慮した素晴らしい未来を思わせた。それはすべての住まいで実行することが可能となる。美術が生活のすべての領域に介入したときに。

現在、女性たちはソファのクッションに馬であつたり、スツールに鳥であつたり刺繍をせず、彼女らの客間が椅子やソファにかける白いカバーによって物干し小屋のようにならないよう懸命に努力をしている。人は本当に芸術的な手仕事を、例えばテーブルセッティングに見ることができる。色彩は、テーブルランナーや花々とともにその勝ち誇った入場口を保っている。しかし、とても美しい美術手工芸品であっても、住まいにあるすべての道具と有機的に飾り付けることはできない。少数の女性たちは部屋を全体として扱う。ところどころに美しさが

あるくらいで何も見いだすことができない、すべての、色彩と形、調和して作用すべきものを欠いたなら。一番重要な物は強調されるべきで、そしてとても美しいのではあるが二次的な物は重要性が低い。人は一度、空の部屋を埋めることを通してその効果を得るべきである。そして二度目は埋めないことを通して。それでもやはり少数の人々だけが理解するだろう。どのようにすれば芸術作品を一番うまく強調できるのか、その設置する場所と背景の両方によって。銅版画は、例えばシンプルな木製フレームとかなりの光を当て、望ましくはブルーグレーの壁紙を必要とする。油絵の絵は、逆に、いくらかの薄暗さと、望ましくはグレイッシュグリーン¹の背景を必要とする。

裕福な人たちに見られるのだけれども、何でもやり遂げられるような。ここにもう一つの危険がある。それは博物館や美術館のようなスタイルによって住まいに特徴を与えることだ。芸術産業展覧会のバロックやロココ、グスタビアンやアンピール様式の部屋によって。まさにそのような部屋は欠如しているのだ、深みのある美的に優れたな様子や本物のスタイルを。なぜならそれは、それらが持つ目的への付加的な要素であり、部屋のあるべき姿ではない。住人の個人的な必要性とテイスト、彼ら彼女らの思い出や感覚、彼ら彼女らの歴史の表現であるべきなのだ。祖母のグスタビアン様式の書き物机はほかの種類家具ととてもよく調和するが、現代的なさほど価値のない細々とした物を置くことによってその見事なシンプリシティを妨げるべきではない。祖父のどっしりとした安楽椅子を納戸にしまい込むことは全く必要なく、ただ隅に押しやって、通路に位置しないようにするか、さらに良いのは、美しい景色や絵画をじっと見つめるための休息を招くような場所に設置することだ。胸像に台座を当てることは不可欠なことではなく、極めて重要なのは胸像をフラシ天で覆ったどのような物体の上にも配置してはいけないということである。なぜなら柔らか

い布は物を支える強度を感じさせないのだ。非常にたくさんの他の物について、優れた美的感覚をもった女性は自ら学び認識するのである。それは彼女が彼女自身の家具などを備え付ける際によく考え始めたとき、彼女が細々とした物一つ一つを選ぶとき、それらがスタイルを有しているのかと彼女自身に問い求めるのである。すなわち、その役割に一致するだけでなく、明白で完全な説明なしに、目的と形、装飾それぞれの調和によってである。どうして、例えば、背が低くて太い首のワインボトルは、楕円形で細い首のものよりも醜いのか？なによりもまず、人が注ぐことが容易ではないのが前者なのである。どうしてその縁が上手に様式化された花で装飾されたお皿は美しく、それに対して醜いのか、その底にダルクツラ²が描かれているものは？なぜならダルクツラの上で食事をするのは馬鹿げているのだから！どうして単色の花瓶は、花が描かれている花瓶よりも美しいのか？それは描かれた花が花瓶の意味に混乱を与えるからで、その意味は出しゃばらずに明らかにされるものであり、実物そっくりの花の絵によってではないのだ。どうして造花や着色された草は人を不快にさせるのか？なぜならそれらは新鮮さの至福の喜びを模倣している。まるで現実には花が伝えるかのように。もしそこに秋の赤い葉のついた枝や実のなったアスパラガス、アザミしかなくても、人は冬にそれらを花瓶に差せば、それらは造花よりも美しい。どうして無地の美しいお皿を壁に飾ることは趣味が悪く、ダイニングルームの壁掛け棚に飾ることは趣味が良いのだろうか？なぜなら後者の飾り付けの場合、それは目的を果たすための準備を同時に行っており、一方、前者の場合はしていない。どうして刺繍で埋め尽くされたテーブルクロスは魅力的ではないのだろうか？縁取りだけを施された無地のテーブルクロスよりも。なぜならテーブルクロスの目的は、テーブルを保護することで、テーブルの目的である物の重さに耐えることを隠すべきではない。そしてその目的は滑らかな

テーブルクロスの水平な表面によってより良く現れる。飾りで埋め尽くされたテーブルクロスよりも。加えて、糸状の飾りは損傷を受ける。テーブルに置かれる物によって。どうして明るくて、軽やかなカーテンが周りにある窓の方が美しいのだろうか？厚くて暗い色のカーテンがあるものよりも。なぜなら後者は窓の意図に逆らっているからだ。光を中に取り入れるという。どうしてオレオグラフ⁸は醜くて、よい写真は美しいのだろうか？それは後者が気取らず、正直に現実を伝えているからだ。芸術作品として弱い表現にもかかわらず。その一方、オレオグラフはひどい方法でそれを真似ようとしている。

この他の千ほどある「どうして」によって答えを自分自身で学ぶことができる。人が努力して得られる、もしくは自身の目と思考を養うに従って。その結果はよいテイストとなる。当然ながらこのようなテイストはさらに訓練することができ、それは選択を洗練し、判断を確かなものにし、熱意を高める。住まいの中で有用さと美しさを一体化することに関して、このような表面的な考慮であっても、それらの調和を創造することによって恩恵を受けることができるのだ。

【注及び引用文献】

- 1 Barbara Miller Lane, 2008, "An Introduction to Ellen Key's "Beauty in the Home" ", Modern Swedish Design, The Museum of Modern Art, pp.27
- 2 Michelle Facos, 2017, "Beauty for All" , Art in Translation, Volume 9, Taylor & Francis Group, pp. 471
- 3 Peter Reed, 2008, "Preface" , Modern Swedish Design, The Museum of Modern Art, pp. 7
- 4 Ellen Key, 1897, "Skönhet i hemmen" , IDUNS, JULNUMMER 1897, pp.47
- 5 Carl August Ehrensvärd (1745-1800) スウェーデンの18世紀の美学哲学者
- 6 節度や適度などを意味するスウェーデン人の持つ概念
- 7 Dalkulla ダーラナ地方の伝統衣装を着た女性
- 8 石版画による油絵複製技術